⑵ 企　画　展

企画展「ミステリーの系譜」

期　間　令和３年９月18日（土）～11月21日（日）　57日間

趣　旨　本展は、江戸川乱歩、横溝正史、木々高太郎を中心に、日本のミステリーの歴史をたどり、幅広い年齢層の読者に受け入れられてきたミステリーの人気の秘密を探った。
当館所蔵の木々高太郎資料をはじめ、立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター、立教大学図書館所蔵の江戸川乱歩資料、湯村の杜　竹中英太郎記念館所蔵の竹中英太郎の挿絵原画、山梨市教育委員会蔵の横溝正史資料のほか、日本近代文学館、世田谷文学館、さらに個人所蔵者からの出品協力を得た。
会期中、10月15日(金)、11月19日(金)の18:30～20:00、ナイトミュージアムとして夜間の事前予約制の開館を実施した。

展示構成　Ⅰ　日本のミステリー草創期
　　Ⅱ　ミステリーの興盛
　　竹中英太郎　挿絵の世界

上　ナイトミュージアムに併せた２階ロビーのディスプレイ

下　会期中実施した京極夏彦氏の講演会「探偵と民俗学者、そして陰陽師」

⑶ 特　設　展

①　特設展「作家の愛用品」

期　間　令和３年４月24日（土）～６月20日（日）

趣　旨　作品の執筆や、日常生活、趣味など、作家が様々な場面で愛用した品々から、作品と共に作家の日常を伝え作家を身近に感じられる展示を行った。

展　示　資　料　一　覧

芥川龍之介

写真パネル　東京帝国大学在学中の芥川龍之介　1915（大正４）年、22歳の頃　提供　日本近代文学館
写真パネル　書斎にて
ペーパーナイフ
Yeats, William Butler『POEMS：SECOND SERIES.』London 1904
「火と影との呪」未定稿
『The Yellow Book, An Illustrated Quarterly, Volume.Ⅲ. Octorber 1894』London
「サロメ」未定稿
革製の財布

樋口一葉

写真パネル　萩の舎発会写真　1891（明治24）年２月　撮影 小川一真
「雪後春月　まだ消えぬみ山のまつの雪の上にかすみて出るはるのよの月」
「ますかがみみしらぬ人のこころまでうつすは筆のすさび成けり」軸装
髪飾り　笄・筋立・根掛け
「たけくらべ」未定稿
しおり
短冊ばさみ・筆立て

中村星湖

写真パネル　パリ留学中、セーヌ河ほとりの林に立つ中村星湖　1929（昭和４）年2月22日
「パリの下宿の窓から」油彩
「印度洋を横ぎりて」草稿
「ロマン・ロランの印象」原稿
「濤声帖」
落款印・硯
サングラスとケース・パイプ・ステッキ・トランク

飯田蛇笏

写真パネル　甲府の旅館・談露館の前で、飯田蛇笏（左）と高浜虚子　1917（大正６）年６月
菅笠
「芋の露連山影を正うす」軸装
写真パネル　狐亭でくつろぐ飯田蛇笏　1959（昭和34）年　撮影 依田由基人
写真パネル　飯田家の墓所で、蛇笏と龍太　1958（昭和33）年４月８日　撮影 若林賢明
落款印・印譜
小刀・煙管筒と刻み煙草入れ
硯・水滴・文鎮
『山廬集』序文原稿
『山廬集』1932（昭和７）年12月　雲母社
万年筆・眼鏡・懐中時計

三井甲之

「しきしまのやまと心はうつそみの目にはみえねど耳にきくべし」短冊
「うつりやすきこのよのたのしみうたにうたひとはにかたみとせむはたのしき」短冊
硯箱・文鎮・煙草入れ・灰皿
「万葉集論」原稿
山高帽子・眼鏡・インク壺・懐中時計

井伏鱒二

写真パネル　長男・圭介と将棋をさす井伏鱒二
「あの山は誰の山だ　どつしりとしたあの山は」軸装
「幸富講　境川に来る　裏で釣る　部屋で飲む　それで良い」軸装
写真パネル　甲府・甲運亭にて　1976（昭和51）年４月６日
将棋の駒台
絵付け皿
「釣宿」原稿
釣り竿と魚籠
小引き出し

深沢七郎

写真パネル　自宅の車庫でギターを弾く深沢七郎　1931（昭和６）年３月、17歳のとき。
「深沢七郎選集出版記念ギターリサイタル」ポスター　1968（昭和43）年３月２日
甲府・山梨県民会館大ホール
深沢七郎　井伏鱒二宛書簡　1968（昭和43）年３月10日
ギター　瑞雲　古稀

山崎方代

写真パネル　鎌倉市手広の方代艸庵にて　撮影 湯川晃敏／方代艸庵にて　撮影 湯川晃敏
「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」軸装
「茶碗の底に梅干の種が二つ並びをるこれが愛というものだ」軸装
『広辞苑』・ルーペ・眼鏡
「広辞苑辞書を枕にかけめぐる半偈の夢を見ることにする」短冊
徳利・盃
「茶ぶ台の上の土瓶に心中をうちあけてより楽になりたり」短冊
腕時計
湯呑み茶碗
「土瓶」草稿
落款印
文箱・ループタイ
スーツ

飯田龍太

「紺絣春月おもく出でしかな」軸装
写真パネル　山梨県南巨摩郡下部町（現・身延町）の栃代川へ釣りに、井伏鱒二と
1963（昭和38）年４月　撮影 小林冨司夫
落款印
印伝の合切袋・硯
釣り道具

田部重治

山梨県各地の地図
足袋・ゲートル
「山の中の話」原稿

写真パネル「笛吹川を溯る」文学碑面
飯盒・竹製の弁当箱・携帯用のコップ

小尾十三

「文藝春秋」第22巻第12号　1944（昭和19）年12月
「母への反抗時代」原稿
芥川賞受賞の副賞として贈られた腕時計
『雑巾先生』1945（昭和20）年７月再版　満州文藝春秋社

太宰　治

写真パネル　石原家にて　1939（昭和14）年元旦
写真パネル　太宰と美知子の結婚式　1939（昭和14）年１月８日
「創作年表」ノート
地下足袋の一部
『薄明』1946（昭和21）年11月　新紀元社
太宰治　井伏鱒二宛書簡　1945（昭和20）年８月末頃（推定）
灰皿

檀　一雄

写真パネル　商店街で買い物をする檀一雄
写真パネル　ポルトガルのサンタ・クルスにて　1971（昭和46）年頃
ワインボトルの籠
料理のレシピや食についての檀一雄の著書
『檀流クッキング』1970年７月　サンケイ新聞社
『わが百味真髄』1969年９月　講談社
『美味放浪記』1973年４月　日本交通公社
『火宅の人』第18章「黄なる涙」原稿
『火宅の人』1975（昭和50）年11月　新潮社

田中冬二

「春」色紙
「八十八夜」色紙
落款印・硯・墨・筆・硯箱
堀口大學　田中冬二宛書簡　1965（昭和40）年９月７日
堀口大學から田中冬二に贈られた辞典『模範仏和辞典』改訂増補版
ペーパーナイフ・ペン・万年筆・ベレー帽・眼鏡とケース

李良枝

「由熙」草稿
『由熙』1989（平成元）年２月　講談社
芥川賞副賞の懐中時計
文具

作家の原稿用紙

夏目漱石　中村星湖宛書簡　1911（昭和44）年７月25日
村岡花子「眠られぬままに」原稿
山本周五郎「青べか物語」原稿
山本周五郎専用の原稿用紙
北杜夫「マンボウ酔族館」原稿
林真理子「葡萄が目にしみる」原稿
林真理子「みんなの秘密」原稿

作家の愛用品

深沢七郎
ギターリサイタル
深沢七郎

②　特設展「文学の中の富士山」

期　間　令和３年７月17日（土）～８月７日（土）　19日間
＊当初、当初８月29日（日）までの開催を予定していたが、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、８月７日（土）で閉幕した。

趣　旨　富士山は、古来より詩歌や散文などの文学作品に数多く描かれてきた。本展では、芥川龍之介が旧制第一高等学校時代に書いた「富士山」作文原稿、太宰治が井伏鱒二に宛てた「富嶽百景」に関わる手紙、中村星湖の小説「少年行」原稿、草野心平の詩と絵画など直筆資料を中心に展示。作家が表現した個性豊かな富士山の姿を、「暮らし」「ビュースポット」「アウトドア」など身近なテーマを通して紹介した。

展　示　資　料　一　覧

富士山タイムスリップ

『万葉和歌集校異』三　橘経亮・山田以文校　文化２（1805）年版
『万葉和歌集』三　宝永６年（1709）年版
「絵入　竹取物語」上下　刊期不明
樋口一葉筆 手習い帖「竹取物語」1889（明治22）年頃
「伊勢物語画帖」室町時代か　個人蔵
樋口一葉筆 手習い帖「伊勢物語」1887（明治20）年
辻嵐外自画賛「天つちをはなれてふじの夜の明る」軸装 個人蔵
辻嵐外自画賛「おもしろき世を一はいにふじの山」軸装 個人蔵
布能文谷筆　辻嵐外肖像・嵐外句「不尽の山見ながらしたき頓死哉」軸装

作家のおすすめビュースポット

芥川龍之介「富士山」原稿
「文体」第２巻第２号、第３号　1939（昭和14）年２月、３月
太宰治　井伏鱒二・奥様宛葉書　1938（昭和13）年９月30日消印
太宰治　井伏鱒二宛書簡　1939（昭和14）年１月24日
太宰治『富嶽百景』1943（昭和18）年１月　新潮社
石原初太郎『富士山の自然界』1925（大正14）年６月　山梨県
太宰治文学碑の文字「富士には月見草がよく似合ふ」の原稿
中村星湖「少年行」原稿「早稲田文学」第18号臨時増刊　1907（明治40）年５月掲載
「早稲田文学」第18号臨時増刊　1907（明治40）年５月
中村星湖「富士の残雪」原稿　1950（昭和25）年７月15日稿
中村星湖「熔岩のくずれの富士の裾はじつに広漠たる眺めである」軸装
田中冬二「本栖村」色紙
田中冬二「人穴の村」色紙　寄託資料
田中冬二『青い夜道』1929（昭和４）年12月　第一書房
田中冬二　詩の創作ノート　1929（昭和４）年以前　寄託資料
長谷川巳之吉　田中冬二宛書簡　1943（昭和18）年７月29日　寄託資料
田中冬二　詩の創作ノート　1958（昭和33）年から59年頃　寄託資料
田中冬二「富士ビューホテルにて」額装　寄託資料
李良枝「ナビ・タリョン」草稿　寄託資料
「群像」1982（昭和57）年11月
李良枝「富士山」原稿コピー　寄託資料
「群像」1989（平成元）年７月～９月
「芥川賞作家　李良枝富士に踊る」ポスター　1989（平成元）年10月31日
若山牧水『くろ土』1921（大正10）年３月　新潮社
若山牧水『黒松』1938（昭和13）年９月　改造社
若山牧水『櫻・酒・富士』1940（昭和15）年９月　新聲閣
若山 牧水「山なだりなだらふ張りの四方に張りて静もりふかき富士の高山」軸装

富士山とわたし

草野心平「富士山六題」折帖　1970（昭和45）年８月
草野心平詩集『富士山』1943（昭和18）年７月　昭森社
草野心平詩集『富士山』限定本　1943（昭和18）年７月　昭森社
草野心平詩 棟方志功版画『富士山』1966（昭和41）年６月　岩崎美術社
草野心平詩集『富士の全体』1977（昭和52）年７月　五月書房
草野心平画「黒富士」水彩
草野心平筆「不二」額装
執筆のため取材をする新田次郎　写真　個人蔵
新田次郎「人に云えない初登攀」原稿　個人蔵
新田次郎「富士山を守れ」原稿　寄託資料
新田次郎「富士山と私」原稿
「サンデー毎日」第1134号　1951（昭和26）年11月10日
新田次郎『強力伝』1956（昭和31）年２月再版　朋文堂
新田次郎『蒼氷』1957（昭和32）年９月再版　朋文堂
新田次郎『芙蓉の人』1971（昭和46）年５月　文藝春秋
新田次郎『富士に死す』1974（昭和49）年６月　文藝春秋

作家とアウトドア

武田久吉『日本地理大系別巻』（富士山）1931（昭和６）年９月　改造社
武田久吉『明治の山旅』1971（昭和46）年６月　創文社
武田久吉旧蔵「富士登山乃栞」錦光館写真部発行
「野鳥」第１巻第４号〈復刻〉1934（昭和９）年８月
「野鳥」第２巻10号〈復刻〉1935（昭和10）年10月
中西悟堂『野鳥と共に』1935（昭和10）年12月　巣林書房
「野鳥」第４巻８号〈復刻〉1937（昭和12）年８月
深田久弥『日本百名山』1964（昭和39）年７月　新潮社
深田久弥 編『富士山』1940（昭和15）年10月 青木書店
小島烏水『名家の旅』1908（明治41）年７月　朝日新聞社
小島烏水『銀河』1901（明治34）年８月
小島烏水『不二山』1906（明治39）年８月増補改訂５版　如山堂書店
小島烏水『偃松の匂ひ』1937（昭和12）年９月　書物展望社
小島烏水『山谷放浪記』1943（昭和18）年５月　青木書店
茨木猪之吉画帖『甲斐のやま山』1935（昭和10）年12月末　序文　小島烏水
遅塚麗水「不二の高根」原稿
遅塚麗水『日本名勝記』上巻　1898（明治31）年８月　春陽堂
遅塚麗水『金剛杖』1907（明治40）年９月　春陽堂雪山のどこもうごかず花にほふ」軸装

山麓の暮らしから生まれた文学

高浜虚子「三省楼酔事　雪を省み花を省み春の富士」短冊
新蕎麦会　高浜虚子 選句稿　1942（昭和17）年８月22日
「虚子選句稿」1949（昭和24）年11月から
高浜虚子「薄雲のなかに初富士ありにけり」色紙　個人蔵
高浜虚子「木陰へと入れば涼しやそれまでは」短冊
柏木白雨「夕富士のほの紫や花の上」短冊
「新蕎麦会句稿」1960（昭和35）年８月から
「句稿」1949（昭和24）年11月から
富安風生「赤富士に露滂沱たる四辺かな」軸装
富安風生「初富士の大きかりける汀かな」色紙　寄託資料
富安風生『富士百句』1969（昭和44）年３月
武田泰淳『富士』1971（昭和46）年11月　中央公論社

武田泰淳「富士」第９回原稿（前期１～５枚目）（後期６～10枚目）
「海」発刊記念号　1969（昭和44）年６月
武田泰淳『富士』特製愛蔵本　1972（昭和47）年10月　中央公論社
司修『富士』挿画原画　エッチング
武田百合子「富士日記序文」原稿
「海」1976（昭和51）年12月
武田百合子『富士日記』上・下　1977（昭和52）年10・12月　中央公論社
武田百合子「日日雑記」原稿
武田百合子『日日雑記』1992（平成４）年７月　中央公論社

③　新収蔵品展「手書きは語る　作家のこころ」

夏目漱石　田部重治　飯田蛇笏　芥川龍之介　井伏鱒二　津島佑子　ほか

期　間　令和４年１月29日（土）～３月21日（月・祝）　52日間

趣　旨　令和２年から令和３年にかけて新たに収蔵した資料を中心に展示。
また、第29回、第30回やまなし文学賞小説部門入賞作が新聞掲載された際の挿絵をあわせて展示した。

展　示　資　料　一　覧

＊は寄託資料

夏目漱石　津田青楓宛書簡　額装　1913（大正２）年６月18日
中村星湖「老童一如」額装　1963（昭和38）年
中村星湖「川中島合戦」額装　1967（昭和42）年３月15日
中村星湖「怒るなと母が諭せし言の葉のかなしからずやなほ耳にあり」色紙
中村星湖「巴里に来て下宿の部屋をきめる時わが選びしは東向きの部屋」短冊
中村星湖「『ほうとう』と『やきもち』」原稿
芥川龍之介　小沢碧童宛書簡　軸装　1921（大正10）年１月６日
井伏鱒二「十二本の山毛欅」原稿
辻嵐外「青梅や蕾おしあふ習ひより」軸装
安田（早川）漫々「蚊にまけて行燈もおかず草の宿」軸装
竹下草丸「仮の世にまたかりそめの浮巣かな」軸装
「夢中奇談」
飯田蛇笏「深山木に雲ゆく蝉のしらべ哉」軸装
飯田龍太「魚賢くてべうべうと夏の海」軸装　＊
飯田龍太「いづこにも雲なき春の瀧こだま」色紙　＊
飯田龍太「一月の川一月の谷の中」色紙　＊
飯田龍太　雲母甲府句会選句稿　1965（昭和40）年６月に開催した句会
飯田龍太　雲母甲府句会選句稿　1969（昭和44）年２月に開催した句会
飯田龍太　雲母甲府句会選句稿　1969（昭和44）年５月に開催した句会
井伏鱒二　飯田龍太宛はがき　1959（昭和34）年２月11日　＊
井伏鱒二　飯田龍太宛はがき　1959（昭和34）年３月27日　＊
飯田龍太　井伏鱒二宛書簡　1959（昭和34）年５月21日
井伏鱒二　飯田龍太宛書簡　1969（昭和44）年２月15日　＊
井伏鱒二　飯田龍太宛書簡　1972（昭和47）年７月30日　＊
井伏鱒二　飯田龍太宛書簡　1976（昭和51）年４月11日消印　＊
井伏鱒二　飯田龍太宛書簡　1976（昭和51）年６月20日消印　＊
渡辺水巴　玄人画「大空のしぐれ匂ふや鵙の贄」軸装
山口誓子「匙なめて童たのしも夏氷」軸装　＊
水原秋櫻子「葛飾や水漬きながらも早稲の秋」短冊
水原秋櫻子「啄木鳥や落葉をいそく牧の木々」色紙　＊
石田波郷「バスを待ち大路の春を疑ハず」短冊　＊
赤尾兜子「音楽漂う岸侵しゆく蛇の飢」色紙　＊
中川宋淵「雲下りて一枝さかんに芽ぶくなり」軸装
松村蒼石「蛇笏はや秋の思ひのなかにあり」色紙
松村蒼石「風邪の子につねのよごれの失せにけり」短冊
松村蒼石「冬の川浅みの澄みのけふも暮る」色紙
石原舟月「春惜みつゝ風交のしづかにも」短冊
石原舟月「風花のかゝりて青き目刺買ふ」短冊
柴田白葉女筆「身の夢を見はてず春の濤はげし」短冊
廣瀬直人「あをあをと山ばかりなり雁渡し」額装　＊
森澄雄「桑解くやひかりにかすみ雪の峯」額装

森澄雄「悦楽か怡楽か桃の花ざかり」額装
森澄雄「雪嶺のひとたび暮れて顕はるる」短冊　＊
森澄雄「山越えてみな雲ゆくや西行忌」色紙　＊
森澄雄「入りてゆく眠りの壺に年の雨」色紙　＊
森澄雄『花間』1998（昭和10）年11月第２刷（初版同年７月）　朝日新聞社
森澄雄『森澄雄俳論集』1971（昭和46）年12月　永田書房
森澄雄『鯉素』1977（昭和52）年11月　永田書房
島木赤彦「常盤木の林の中に家あらしある時は子の泣聲聞ゆ」軸装
清水比庵「わが歌を召さるといふか天地に蕭條として年老ひてあり」
　　「ほのぼのとむらさきに匂ふ朝ぼらけうぐひすの聲山よりきこゆ」軸装
玉城徹「男鹿の海の鯛のうしほの大き椀めかぶのぬめり箸にひきつゝ」軸装
尾上柴舟「ひとすぢのつきのよかぜのほにはれてみちはかひまにいりにけるかな」短冊
齋藤茂吉「いつしかも月の光はさし居りてこの谷間よりたつ雲もなし」短冊
中河与一「藝術とハ閉ちることでハなく常にひらくことである」色紙
山崎方代「勝頼は己の首をおしみなく、信長殿にくれて、やりたり」色紙
山崎方代「大切に一日ずつを暮しおる年をとつても遅生れなり」短冊
山崎方代「空木の花くりの花野ばらの花川ははげしく夏となりたり」扇面色紙
武者小路実篤「疲れたら休み元気になつたら又働く春の日」軸装
新田次郎「黄葉紅葉信玄の見た甲斐の山」色紙　1974（昭和49）年
新田次郎「はぜ赤く信玄遠く甲斐の道」色紙　1974（昭和49）年
正宗白鳥「明治文壇総評　予が感化を受けた明治文学」原稿
檀一雄「石川淳氏の季節「鳴神」について」原稿
林房雄「酒の徳」原稿
津島佑子　北杜夫宛書簡　1968（昭和43）年９月12日消印
津島佑子　北杜夫宛書簡　1969（昭和44）年２月５日消印
津島佑子「山を走る女」原稿
津島佑子「笑いオオカミ」原稿
津島佑子「ナラ・レポート」に関わる年譜
津島佑子「あまりに野蛮な」原稿
津島佑子「宇津保物語」原稿
津島佑子「狩りの時代」ワープロ原稿
「日印作家キャラバンにて」写真　2001（平成13）年12月
「日印作家キャラバンにて 現地の子どもたちと」写真　2001（平成13）年
キルギスにて　写真　2008（平成20）年６月30日・７月１日・７月８日
堀口大學「愛する者の前にこころは弱いばらの花ほど傷つき易い」短冊
米澤順子　竹下彦一宛書簡　1928（昭和３）年３月７日
三井甲之「歌壇に対する希望」原稿
土橋治重「藤原四代」校正刷り
武田泰淳「妖美人」原稿
熊王徳平　歌集「独り」
熊王徳平「日記」
中村鬼十郎「くされ縁」原稿
田部重治「笛吹川の想い出」草稿
田部重治『日本アルプスと秩父巡禮』1919（大正８）年６月　北星堂
田部重治「徳本峠より神河内まで」原稿
田部重治『山と渓谷』（戦時体制版）1939（昭和14）年６月　第一書房
茨木猪之吉　田辺（南日）重治宛はがき　1918（大正７）年11月28日
茨木猪之吉　田辺重治宛はがき　1938（昭和13）10月28日
茨木猪之吉　田辺重治宛はがき　1938（昭和13）年11月11日
茨木猪之吉　田辺重治宛はがき　1942（昭和17）年９月14日
茨木猪之吉『山旅の素描』1940（昭和15）年12月　三省堂

中村清太郎『山岳渇仰』1944（昭和19）年10月　生活社
中村清太郎『ある偃松の独白』コマクサ叢書第15巻　1960（昭和35）年５月　朋文堂
中西悟堂『山岳詩集』1934（昭和９）年２月　朋文堂
深田久弥『わが山山』1934（昭和９）年12月　改造社
深田久弥『日本百名山』1964（昭和39）年７月　新潮社
田部重治旧蔵「蓼科山」地図
田部重治旧蔵「三峰」地図
中野宗夫 画「梵字碑にザリガニ」挿絵原画
崎浜慎『梵字碑にザリガニ』2020（令和２）年６月　山梨日日新聞社
佐野美代子 画「鷹を飼う」挿絵原画
柏原恵美 画「スーパームーン」挿絵原画
赤池宏己 画「銀ぎつね」挿絵原画
田村修宏『銀ぎつね』2021（令和３）年６月　山梨日日新聞社
内海仁美 画「河童のいた日々」挿絵原画
横森秀彦 画「カップ酒」挿絵原画